ドンズーと私

グループ C、学籍番号 7513566, ファン　タン　ツアン

1. ドンズーの紹介。

私は日本へ行った前に、日本語を勉強するために、ドンズー日本語学校という名前の日本語学校である。ドンズー日本語学校はベトナムの全国でいろいろ地域から皆が行く。その学校で同じ地域から来る人は同じ寮のところに入り、1 つのグループになった。そこで皆は一緒に協力生活し、また一緒に勉強したこととか、大会があったら皆は他のグループと挑戦することだ。私のグループは他のグループと比べてちょっと違うこがあった。私のグループ前回の先輩がいないから、なにをやっても自分の判断でやった、また先輩がいないから、日本語を分からないとき皆は互いに手伝った。それに学校へ行ったとき、学校の先生は本当にやさしし、熱心におしえたし、それにいつも自分のことより学生のために考える。そこで私にとって、二番目の家族だ、だからドンズー日本語学校は大切のコミュニティだ。

2. 話し合い相手。

私はドンズー学校に入ったら新しい環境に生活しなければならなかった、また、そのときまで初めて家族に離れたから最初のときいろいろなことをわからなかった、そこで私はニャンさんに会った。ニャンさんは私より 5 歳上、ベトナムの大学を卒業し、日本の大学院に留学するために私と一緒にドンズー日本語学校に入って日本語を勉強した。それに、私と同じグループだった。彼はもう 4 年間の大学で生活をしたから、いろいろな経験があるし、また日本語も勉強したから、皆のグループはニャンさんをリーダに決めた。ニャンさんは厳しい人で、例えば、夜 11 時には寝なければならないルールがあって、誰か破るとすごくしかられた。しかし、それはみなのためだから、徹夜は自分にあまりよくないし、また皆は同じ部屋だから、一人徹夜すると他の人に迷惑したからだ。そして、私は外国語は苦手だ、高校の時代、英語があまりよくなかった、またドンズーに入ったときもなかなかうまくできなかった、また私は物理もあまりよくないから、グループの中で、私はよくニャンさんに心配された。また、私は物理も全然分からなかったから、だからいつも私のグラスの状況を聞き、分からないことがあれば、ゆっくり教えたくれた。また日本に来てからも、私の状況をよく聞いている。だから私にとって本当の兄だった

3. 話し合いの結果。

11 月 9 日にニャンさんと skype で話しました、ニャンさんは一年半前日本の電気電子の工場で初めて働きました。それで 3 ヶ月後結婚式を行われました。結婚式はベトナ

ムのニャンさんの地元でやりました。ニャンさんは結婚のことはみなに教えずに、突然結婚しますって、そのとき私は本当にびっくりした、また花嫁はドンズー日本語学校に化学を教えた先生であるから、だからもっと驚いた。ニャンさんは結婚してから、奥さんとよく旅行をしに行った。ニャンさんは笑いながら旅行のことを話した、色んなところへ行って、山を登るとか海に行くかとかした。またニャンさんからたくさん写真を見せてくれた。私は大学に入ってから、ニャンさんと話すことがすくなくなっていたから、今いろいろ話した、ニャンさんが私の大学のこととか秋田の天気のこととか、またアルバイトも聞いた。またニャンさんのことも聞いた、会社に入った時、今の奥さんはまだ東京にある日本語学校に通っていた、また、日本の工場に入ったばかりだから、わからないことがいっぱいだし、まだ慣れないから毎日が大変で、ストレスもいっぱいたまった。しかし、結婚してから、いつも応援する人がいるから、だんだん生活が良くなった。それから、ニャンさんに私の目的を言ったから、ニャンさんが驚いた。ドンズー学校についてどう考えるかと聞いてから、家族だと答えた。ニャンさんの話から、ニャンさんの家族から大学のところとドンズー学校までとても遠い、大学の時、学校が終わってから、部屋に戻ると一人しかいなかった、病気の時でも一人しかいなかった、学校が楽しかったが、部屋ではつまらなかった。しかしドンズーに入ってから、学校でも部屋に戻っても友達がいた、また病気の時、皆から料理を作ってくれたとか、世話したとか、それに、毎日学校が終わってから皆一緒にご飯を作ったり、勉強したり、時々皆と遊びにいった、家族だと思った。

私と同じニャンさんは最初ドンズーに入った理由はただ日本に行きたいという目的である。しかし、入ったら２番目の家族をみつけた。また、校長先生からいろいろ教えてくれた。ルールを守らなければならないとか、国はまだ途上国だから未来国に利益の人にならなければならない。だから、ニャンさんはいまそちらの会社であと３年間ぐらい頑張って国に戻ろうと思っている、その時校長先生の希望の通りに国のために何かをやりたいと思っている。

４．ドンズー日本語学校と私。

ドンズー日本語学校は私にとって大切なものである。私はドンズー学校に入ったから自分で生活を過ごしなければならない、だんだん慣れたから日本に行ったとき自分生活をあまり驚かなかった。またドンズー学校でグループの友達はみなよく互いに勉強のことでも生だんだんよくなっている、だからその関係をもっと良くになるために活のことでも手伝った。また高校のときただ大学が終わったら仕事をやると考えた。しかし、ドンズー学校の校長先生からいろいろなことを教えてもらった。たとえばなにもやるとき責任が必要だ、また国は発展するため若者が元である。だから自分でもっと成長して、もっと将来のことを考えた。だから、私は大学で勉強してから国のために何かを貢献したい。それに今、ベトナムと日本の関係が力を加えようと思っている

私は日本に行くときと大学の受験したときほかのドンズー学校の先輩からいろいろ

手伝ってもらった。毎年ドンズー学校から学生を送っている。そこで、できるだけ日本にいる先輩からもらったことのように後輩たちに手伝いたい。

５．　まとめ

　授業の前、コミュニティは何か、よくわからなかった、しかし今少しわかった。私の考えたのはコミュニティが自分にとって大切で近づく団体だと思う。それで、その団体の皆に対して、大切のコミュニケーションである。またコミュニケーションとは何かというと、、コミュニケーションとは他の人に話すとき、ただ自分の話しを話すと相手の話しを聞くだけでなく、聞いた話しの相手から、自分の考えたことを自分の言葉で言うことだと思う。だから、コミュニティはある場所でたくさんの大切のコミュニケーションを含んで集めることだと思う。

６．　クラスについての感想

　今回の授業でほかの皆の自分のグループのコミュニティを話してくれた。過去のコミュニティも現在のコミュニティもある。私の場合は過去であった。私の考えのは誰でも自分にとってたくさんコミュニティがあると思う。学校のこととか働くところとか家族とかだと思う。だから私は自分にとってもっとたくさんのあたらしいコミュニティを見つけたい。